

# 赤谷プロジェクト 近況報告

## 養成研修専攻科生(第48期)へ講義

3月26日、森林技術総合研修所において林野庁の若手職員を対象とした平成20年度養成研修専攻科の授業で赤谷センター所長が講師として、赤谷プロジェクトの取組について講義をしました。

全国11箇所に森林環境保全ふれあいセンターが設置された経緯や業務内容、生物多様性の保全に関する日本の政策の歴史的背景等を説明の上、現在、赤谷プロジェクトで行われている官民協働による生物多様性復元に向けた取組などについて説明



専攻科講義

をし、その後、地元との関係や国有林の事業実行との調整、生物多様性の復元に向けたモニタリング調査の詳細などについて質疑応答を行いました。

生物多様性の保全・復元に必要な人材の育成が求められる中で、今回の講義が役立ってくれればと思います。

## 「赤谷の日」の活動

赤谷プロジェクトでは、毎月、第一土・日曜日を「赤谷の日」と名付け、東京や神奈川からの参加者を含め毎回約30名のサポーターが、「いきもの村」を活動拠点として様々な調査研究活動を行っています。

これまで、ホンドテンモニタリング調査、木の実豊凶調査及び南ヶ谷湿原の植生調査など、おおよそ決まったグループが担当して実施してきましたが、今年度からは、各人が未経験の調査研究活動も体験し、サポーター同士の情報の共有や「赤谷の森」に対する総合的な知見を高めていくこととしました。

そこで4月の第一日目は、調査に全員が参加して、赤谷林道、小出保林道及び雨見林道などでホンドテンの糞のサンプリング調査を行いました。初めて参加したサポーターは、なかなか糞を見つけれることが出来ませんでした。慣れてくると、マージングを兼ねて落石の上など目立つ



ホンドテンモニタリング調査の様子

ところにあることが分かりました。また、餌としている動植物により糞の形状や色も異なっており、その分析を通じて「赤谷の森」の様子を説明していくことも可能であることが理解されるなど、サポーターの認識がより一層深まりました。

第二日目は、「赤谷の森」をよく知るため、これまであまりサポーターが足を踏み入れたことがない赤沢林道や保土野林道で、春の「赤谷の森」にどんな動植物がいるか、また、この森の歴史について調査しました。

「赤谷の日」前の数日間は、冷え込みが厳しかったため春も足踏み状態でしたが、この日はキクザキイチゲやマンサクも開花し、クジャクチョウも元気よく飛んでいました。

今回は、これらの活動と平行して、赤谷プロジェクト自然環境モニタリング会議委員である国土館大学の中井達郎さんが同行して、南ヶ谷湿原の調査も行いました。ここは湿原独特の植物や昆虫も存在するため、「赤谷の日」における調査などに基つき、今年度は全体の保全計画を作成する予定です。

「赤谷の日」の活動は赤谷プロジェクトを支える重要な取組であり、今後も面白くかつ有意義な内容となるよう取り組んでいきたいと考えています。

(赤谷森林環境保全ふれあいセンター)



キクザキイチゲ



クジャクチョウ